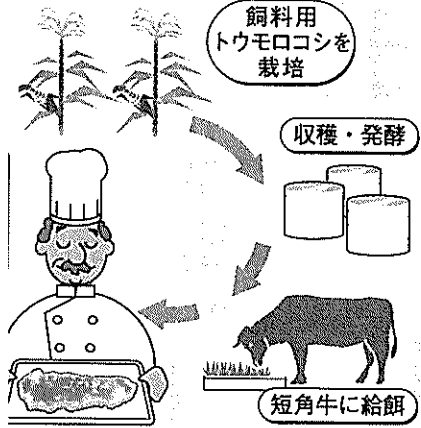


「プレミアム短角牛」ができるまで



本県産粗飼料70%給餌

2月から 畜産振興に弾み

県が試験育成を進めてきた自給粗飼料多給の「プレミアム短角牛」が来年二月から本格販売される。輸入トウモロコシなどの濃厚飼料を抑制し肥育するため、地場産の粗飼料確保などに時間がかかったが、出荷頭数に一定のめどがついた。世界的に穀物需給が逼迫する中、輸入飼料を輸送する際の二酸化炭素(CO₂)削減にもつながる取り組み。食の安全・安心に加え、環境にも配慮した「こだわりの岩手ブランド」として注目されそうだ。

プレミアム短角牛は飼料を与える。これまで本年度、岩泉町と久慈市山形町の六農家が五十頭を肥育。県は二〇〇五年度から試験育成を始め、肉質やうま味成分(グルタミン酸など)を調査してきた。その結果、従来の短角牛との比較で、肉質やうま味成分などが同等のレベルに達し、来年二月から五十頭を順次、出荷する。

プレミアム短角牛は、地場産の飼料用トウモロコシのサイレーシ(乳酸発酵させた飼料)などの粗飼料の割合をエネルギー換算で70%にし、残りは輸入トウモロコシなど濃厚飼料を与える。これまで

粗飼料と濃厚飼料 粗飼料は牧草やサイレーシ、わらなど。繊維の量が多く、牛の胃の機能を高めるためにも必要とされる。飼料用トウモロコシのサイレーシは、細かく切ってロール状にビニールでラップして発酵させる。濃厚飼料は麦やトウモロコシ、大豆かすなど穀類主体の飼料で、栄養価は高い反面、消化性が低い。

千三百五十円から一割程度高い販売価格を希望している。

プレミアム短角牛十頭を肥育する岩泉町大川の佐藤安美さん(47)は「消費者には飼料を育てているところも見てもらい、より安全・

プレミアム短角牛出荷

「プレミアム短角牛」の出荷を目標に掲げたい」としている。県は一〇年二月と一年二月にそれぞれ百頭、一二年二月に二百頭の出荷を目標に掲げたい」としている。

え 要移の募集も検討中。県畜産課の佐々木宏総括課長は「岩手の歴史、風土、自然が一体となり、つくられる良さがある。県内外で価値を認めていただき、畜産振興に結びつきたい」としている。